

高良興生院・森田療法関連資料保存会

ニュースレター あるがまま

NO.5 2012年2月

「甘え」と森田療法

ルーテル学院大学

丸山 晋

保存会の増野先生から講演会で表題のテーマで話すようにと依頼を受けた。かねてから関心のあるテーマだったので思うところを述べさせていただいた。

「甘え」とは、土居健郎先生によれば、人間関係を解明するキー概念であるという。それは母子関係において始まる。ボウルビーなどの称する愛着行動（アタッチメント）に近い。しかしこの現象は人間関係の存するところあまねく存するというのが、土居先生の考えである。

土居先生には「とらわれの精神病理」という有名な論文がある。それによると森田神経質には「甘えたくても甘えられない心理がある」という。これに対して森田先生は、神経質における「ヒポコンドリー基調」なるキー概念を認めている。高良先生はこれを「適応不安」といった。私は「甘え」「不安」は心理学的なネーミングで、「ヒポコンドリー」は生物学的な見方であり、両者は同じ現象をとらえているとした。また「甘え」は生の欲望の方面からの観察であり、「ヒポコンドリー」は死の本能からの観察で、両者は表裏一体の関係にあるとした。

精神分析家の土居先生は、「ヒポコンドリー性基調」は、生と死の葛藤を意味しているので、すでに「病理」をなしている。つまり「とらわれ」がそこに存しているといっているのに対して、森田先生は「ヒポコンドリー性基調」はアプリアリに神経質には存在し、「とらわれ」はそれを「基として」発生するとしている。私は森田先生が正しいと思うのだが、皆さんはいかがであろう？

ただし土居先生は「甘えたくても甘えられない心理」は無意識のレベルのことだと言っている。森田は御承知の通り意識レベルを問題としているので、両者が食い違うのは当然ともいえる。また土居先生は「宗教と甘え」なる本では、カトリックの信仰などは「宇宙的な甘え」だと述べている。私も森田療法は「自然への甘えである」と言えないこともないと思う。それを支持する考えとして、親鸞のつくった言葉である「自然法爾」という状態は、森田の「あるがまま」とみなされよう。といったわけで森田療法における「甘え」論議は興味の尽きないテーマである。

阿部亨先生訪問記

飯田橋光洋クリニック

市川 光洋

高良興生院・森田療法関連資料保存会では、平成11年5月15日に、阿部亨先生をお訪ねし、先生から興生院時代のお話をうかがってまいりました。阿部先生は、皆さんもご存じのとおり、高良興生院の院長を昭和30年（1955年）から平成7年（1995年）まで、40年の長きにわたって勤められ、さらに興生院廃院後は、森田療法クリニックを開設され、86歳の現在も現役で神経症の治療を行われています。

筆者が高良興生院で森田療法を教えていただいた昭和50年代には、すでに「ミスター森田療法」として、その実力は斯界で第一人者として認められておりました。にもかかわらず、研修に来ていた若い医師達にも自然体で丁寧にお話をしていただき、阿部先生の人柄と存在とが、当時全盛期にあった興生院の大きなバックボーンとなっていたことが思い起こされます。

今回保存会では、阿部先生のお話をうかがうと共にVTRの撮影もさせていただき、高良興生院の生きた記録としてこれを保存させていただくこととなりました。先生の森田療法クリニックは、新宿区中落合にあった高良興生院からほど近いマンションにあり、そこにインタビュアーの私と撮影隊3人とでお邪魔させていただきました。

阿部先生は、あらかじめお話の要旨を数枚の紙にまとめられ、慈恵医大に進まれた状況、高良先生から興生院の院長に指名された時のエピソード、最初のころの「高良先生のワンマンショー」だった興生院の様子、その後10年間か

けて、阿部先生が御自分の治療の型を作っていた時代、身近に接した高良先生の自由闊達な態度と患者さんの苦しさにに対する素直な共感に感銘を受けたことなどを、2時間にわたって話し続けていただきました。

また用意された原稿に加えて、高良興生院を退院した後の患者さん達の消息、神経質の人たちは偉い人であっても謙虚でやさしかったこと、阿部先生自身も対人恐怖や不完全恐怖があったこと、さらに「指導は自分自身に対して言うことを言えば良かった、自分に言い聞かせているようなもの」とおっしゃり、「指導することで、自らの症状の残渣もいつとも無しにこだわらなくなり、患者さんの話も理屈でなしにうなづけるようになった」ことも忌憚無く話していただきました。

そして最後に、「86歳の今、興生院時代は、責任者としてつらいこともあったが、自分の人生の中で1番充実していた時だった」と結ばれました。

お話をうかがって帰る道々、保存会の撮影隊は、阿部先生のお話の明晰さに、そして今でも続けておられる治療者としての歩みに受けた感銘を、誰からともなく話し続けていました。

＜秋の心の健康連続講座のご報告＞

高良興生院・森田療法関連資料保存会

足立美知子

恒例の「秋の心の健康講座」三回シリーズを、昨年10月から12月にかけて行いました。

一回目は「老年期のうつ病と認知症」という題で、たかはしメンタルクリニック院長の高橋俊郎先生にお話していただきました。老年期のうつ病と認知症については関心が高く、活発な質疑応答がなされました。

二回目は「森田療法の変遷——入院療法から外来治療へ」という題で、御茶の水医院院長の市川光洋先生にお話していただきました。入院森田療法の実践の場であった高良興生院での治療法から、現在行われている外来森田療法について丁寧にお話していただきました。

三回目は「甘え理論と森田療法について」の題で、ルーテル学院大学の丸山晋先生にお話していただきました。甘えの理論を森田療法と絡めて大変興味深くお話していただきました。

全三回シリーズ講座にのべ60名の方がご参加くださいました。

各講座とも皆様の関心の高い内容で熱心に聴講していただき、とても有意義な会となりました。これからも心の健康について皆様と一緒に考えていけたらと思っております。次回もご参加をお待ちしております。

2012年春の講座のお知らせ

今回のテーマは「心の健康と森田療法」。人間の自然治癒力を尊重した森田療法が、心の健康にどのように役立つかについてお話をします。第一回は、森田療法の誕生にまつわる話と、その特長について。第二回目は、現在の日本のおかれた危機的状況に対して、どのような面で活用できるかを考えたいと思います。

第一回 2012年3月21日(水) 午後2時～3時半

「心の健康と森田療法 I」

第二回 2012年4月11日(水) 午後2時～3時半

「心の健康と森田療法 II」

講師 増野 肇 (ルーテル学院大学)

会場 就労センター「街」研修室

保存会会員は無料です。非会員 一回1000円

2012年度総会のお知らせ

2012年度の保存会総会は、井上円了ゆかりの哲学堂公園にて開催します。森田療法成立に多大な影響を与えた井上円了について、そして円了と森田療法の関係についての講演と哲学堂公園散策です。

日時 2012年5月13日(日)午後を予定しております。

会場 哲学堂公園(中野区松が丘、西武新宿線「新井薬師駅」より徒歩)

講演 中山和彦(慈恵医大精神科教授)

「井上円了と森田正馬—森田療法成立への貢献」

三浦節夫(東洋大学教授、井上円了センター研究員)

「井上円了入門」

会員のかたには別途お知らせを発送いたします。

